

測地学分科会 地震火山部会での審議状況

測地学分科会 地震火山部会

御嶽山の噴火を踏まえ、火山研究に関しては、災害の軽減を図るための課題が多くあることが、改めて認識された。これを受けて、地震火山部会の中で、御嶽山の噴火を踏まえた火山研究の課題と対応について審議することとした。

1. 日 程 第18回:平成26年10月10日、第19回:10月24日
2. 議 題 御嶽山の噴火を踏まえた火山研究の課題と対応について
3. 概 要 御嶽山の観測強化、人材育成等について議論を行った。
 - (1) 御嶽山における観測研究及び体制の在り方
 - ・ 関係大学や研究機関が一丸となったオールジャパンの観測体制の充実
 - ・ 水蒸気噴火からマグマ噴火への移行過程の解明等総合調査の早期着手→ 御嶽山の総合調査に関して科学研究費補助金(特別研究促進費)が認められ、当面の課題についてはその中で実施
 - (2) 火山観測研究及び人材育成の在り方
 - ・ 地震学や工学、人文・社会科学との連携研究
 - ・ 物質科学、地球化学との連携による多項目観測
 - ・ 効率的な観測研究体制作り
 - ・ 既存の観測網の活用
 - ・ 研究者、自治体、行政による顔の見える関係の構築
 - ・ 火山学を志す学生の教育
 - ・ 国際交流の促進 など
 - (3) 減災・防災対策への貢献
 - ・ 火山観測データの流通の促進
 - ・ 不確実な情報提供の在り方に関する研究 など
4. 今後の開催予定
年内の早い時期に基本的な考え方をとりまとめ予定

御嶽山の噴火活動について

1. 今回の噴火活動

- 平成26年9月27日11時52分頃に火砕流をともなう噴火が発生。
- 1979年(昭和54年)と同規模の噴火と見られ、降灰の分析より水蒸気噴火と考えられている。
- 噴煙の高度は火口上7,000mと推定。
- 先行した現象としては、9月10日から火山性地震が一時的に増加したほか、14日から低周波地震が発生。(なお、地殻変動や噴気活動には特段の変化はなし。)

2. これまでの噴火活動

年代	現象	活動経過・被害状況等
1979 (昭和54)年	中規模: 水蒸気噴火	10月28日早朝に噴火。火砕物降下。同夜におさまる。前橋付近まで降灰。山麓で農作物被害。噴出物の総量は約20数万トン。
1991 (平成3)年	ごく小規模: 水蒸気噴火	5月13～16日の間噴火。4月20日山体直下で地震多発、以後6月まで時々地震多発。4月27日～6月微動多発、特に5月12～16日微動活発。
2007 (平成19)年	水蒸気噴火	1～3月にかけて噴火。 1月16～17日火山性地震増加(16日90回、17日164回)1月25日一連の活動中で最大の火山性微動発生。3月16日噴気量増加。